

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(3月21日～3月27日)

2022年4月18日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 国家保安委員会(KGB)が、在ベラルーシ・ウクライナ大使館による諜報活動を告発。翌日、外務省が同大使館の館員数の縮小を要請(3/22、23)
- ルカシェンコ大統領が YouTube その他の SNS のブロックを示唆(3/25)

【ルカシェンコ大統領動静】

●高官人事

- ・ドミトリー・ザヤツ副首相(農業・輸出等担当)
(前国民議会共和国院(上院)副議長)
- ・アレシ・アブラメンコ経済次官
(前反独占規制・商業省社会分野・サービス局長)
- ・アレクセイ・スクラガ国営「ベラルーシ・カリウム公社(BKK)」総裁
(前「ベラルーシ対外特殊機材(ベルスペツヴネシテフニカ)」(武器輸出公社)総裁)
(3/21 大統領府、国営ベルタ通信、経済省)

●マスメディアの活動の当面の問題に関する会合

大統領は要旨以下を述べた。

- ・YouTube やその他の SNS をブロックすることはできるが、そのような措置に踏み切る前に、賛成・反対両方の意見や効果につき、十分に考えた上で決定を下す必要がある。
- ・我々には、話題性のある事柄や事実が豊富にあり、国際社会全体に正直かつ信頼できる仕方で提供できる。プロパガンダをしっかりと行わなければならない。
- ・ベラルーシがウクライナでの戦争に参加するという情報が拡散されているが、そうやって国外に逃亡した連中や西側が、ベラルーシを戦争に巻き込もうと世論を準備しているだけ。ベラルーシが参戦するのは、ベラルーシに対する直接攻撃がある場合のみ。
(3/25 大統領府)

【外交】

●ベラルーシ外務省が駐ベラルーシ・ウクライナ大使館の館員数の縮小を提案

- ・3月22日、国家保安委員会(KGB)は、在ベラルーシ・ウクライナ大使館の外交官20名以上が、ウクライナ国防省諜報総局やウクライナ対外情報庁の出向者で、ベラルーシ国内で活発に諜報活動を行っていたとして、協力者とされるベラルーシ人男性を逮捕した旨発表。
- ・同日、ニコレンコ・ウクライナ外務省報道官は本件に関し、ベラルーシ側が「スパイ」と呼んだ在ベラルーシ・ウクライナ大使館員は、各出身省庁からの正式な出向者であり、ロシアによるウクライナ侵攻以前には、ベラルーシ政府当局者と何度も会談を重ねており、在ベラルーシ・ウクライナ大使館による「隠蔽のもと」での活動などではない旨指摘。
- ・3月23日、グラス外務省報道官は、在ベラルーシ・ウクライナ大使館の館員数を大使を含めて外交官5名にまで縮小させた上、その他の館員が72時間以内に国外退去するよう求めるとともに、在ブレスト・ウクライナ総領事館の閉鎖が決定されたことを発表。
(3/22、23 外務省、国営ベルタ通信、Zerkalo、BPN)

●アムブラゼヴィチ外務次官とカザナ=ヴィシネヴェツキー駐ベラルーシ国連常駐調整官の会談

- ・経済発展にかかる諸問題の解決、社会分野の進展と生活水準の向上への支援を目的としたベラルーシと国連の協力の現状と見通しにつき協議。
- ・同次官は、国連の側から政府に対し、関係省庁の実務上の関心に適合するピンポイントかつ実効性の

ある支援が実施されることを目的として、連携のメカニズムを改善することが重要である旨強調。

・また、ウクライナからベラルーシへの避難民に対する人道支援の提供という問題も協議。

(3/24 外務省)

●アレイニク外務第一次官とヨジッチ・バチカン大使の会談

・地域情勢と人道面での協力につき協議。ベラルーシとバチカンの連携が有意義であることが強調された。

(3/24 外務省)

●マケイ外務大臣・ナザルク外務次官とグルィズロフ駐ベラルーシ露大使の会談

(1)ナザルク外務次官とグルィズロフ露大使との会談

(3/24)
・ベラルーシ・ロシア二国間協力の当面の問題、各種の統合機構や国際機関を通じた連携に加え、(4/2の)ベラルーシ・ロシア両国民一致の日の祝賀に向けた準備につき協議(注:ナザルク次官は、ユーラシア経済委員会貿易政策局長を経て本年2/10に外務次官に任命、主に統合関連問題や貿易を担当)。

(2)マケイ外務大臣とグルィズロフ露大使との会談

(3/25)
・ベラルーシ・ロシア二国間協力の当面の問題の他、統合機構を通じた連携についても協議。

(3/24~25 外務省)

●オーストラリア、ルカシェンコ大統領及び家族にも制裁を拡大(3/25)

・ルカシェンコ大統領、大統領の長男ヴィクトル氏(元大統領補佐官(国家安全保障担当))及びガリーナ夫人を制裁対象に追加。

・またフレニン国防大臣ら13人のベラルーシの高官に対しても制裁を発動。

・ロシアによるウクライナ侵攻と、それに対するルカシェンコ体制による支持を受け、オーストラリアは2月28日にベラルーシ・ロシア両国に対する制裁を発動。

(3/25 オーストラリア外務省、BPN、Zerkalo)

●スプロコフ第一副首相・マケイ外務大臣と謝小用駐ベラルーシ中国大使との3者会談

・両国は、ミンスクと北京のパートナーシップが戦略的性質のものであることを指摘し、両国の核心的利益に適う問題に関する支持に変わりがないことを強調。

・ベラルーシ・中国関係の喫緊のテーマ、特に貿易・経済面や投資面における連携につき協議。

(3/25 外務省)

●アレイニク外務第一次官とオズジャン駐ベラルーシトルコ大使の会談

・ベラルーシ・トルコ二国間協力の一連の当面の問題につき協議。

・ベラルーシ・トルコ外交関係樹立30周年の祝賀が相互に行われ、二国間の連携を今後とも強化し、様々なレベルでの対話を進展させてゆくことを強調。

(3/25 外務省)

【内政】

●当局から民間の団体・一般市民に対する強制捜査・逮捕等

3/21

・捜査委員会は、ブレスト州ピンスクの男性を、軍用車両の移動を撮影し、政権側から「過激主義」に指定されているSNSでシェアしたとして逮捕。

・人権団体「ヴァスナ(春)」によれば、ブレスト州バラノヴィチで、過激主義の流布を理由に少なくとも7件の行政罰の裁判が行われた。また、麻薬・武器・国家の表象等を理由に家宅捜索が行われた。逮捕者はバラノヴィチ拘置所に収監されているが、寝具を与えられず、夜中に2度点呼が行われている。

3/22

・内務省組織犯罪・汚職対策総局は、ロシアと戦うためにウクライナへ向かおうとしたとされるミンスク在住の男性を拘束。親政権系SNSが同男性の「懺悔」動画を公開。

・捜査委員会は、モギリョフ州オシポヴィチ在住の男性を、鉄道でのテロを計画したとして逮捕。同男性は2021年1月に、当局から「過激主義」認定されているBYPOL(元治安機関職員による内部告発団体)や

「勝利の計画」等に自主的に参加していたとされる。

・人権団体「ヴァスナ(春)」によれば、ゴメリ州で内務省組織犯罪・汚職対策総局が、インターネット上でのコメントを理由に数十人を拘束し、ゴメリ拘置所に収監。収容者には寝具が与えられず、上着を剥ぎ取られ、日中は座ったり横になったりすることが許されない。日中4度の監房内点検があり、夜中にも2度点呼があり、収容者は起きて廊下に整列を命じられる。

3/23

・内務省が自省ホームページで、「過激主義活動」に関与したとする人物一覧を公表。3月23日現在、140名が記載されている。

・内務省組織犯罪・汚職対策総局は、ゴメリ州スヴェトログルスク在住の男性を拘束。親政権系 SNS に、同男性が「過激主義」組織に加わっていたことを「懺悔」する動画が公開された。

・社会学者のタチアナ・ヴォドラシスカヤ博士候補が、捜査委員会訪問中に逮捕される。同人はチハノフスカヤ陣営で活動しており、これまでも何度も捜査委員会から尋問のために召喚されていた。

3/24

・シヴェド検事総長は、テルテリ国家保安委員会(KGB)委員長の提案に従い、NEXTA(ステパン・プティロ氏により創設された反体制派 Telegram チャンネル)とその関連チャンネルである NEXTA Live 及び LUXTA のテロ組織への認定を求める申請書を最高裁判所に提出。

3/25

・モギリョフで、カトリックの聖職者であるヴァシリー・エゴロフ氏が拘束される。理由や拘束時の状況は不明。同氏は自分の車に「ウクライナよ、許してくれ」というプラカードを掲げていた。

・人権団体「ヴァスナ」によれば、「意思の日」(1918年3月25日にベラルーシ人民共和国が独立を宣言した日)にミンスクで12人が拘束された。

・内務省は、「意思の日」に関連した示威行動は煽動行為であるとして警告。

3/27

・内務省組織犯罪・汚職対策総局は、総合格闘技選手であるヴラジスラフ・ノヴィツキー氏の「懺悔」の

動画を公開。同氏は2020年8月に抗議行動に参加していた他、ロシアによるウクライナ侵攻が始まった2月24日に、戦争に反対する旨を自身のSNSで投稿していた。

(3/22~27 BPN、Zerkalo、人権団体「ヴァスナ」)

●3月22日付大統領決定第116号「インターネットにおけるニュースアグリゲーターについて」

・情報省は、ブロックされたサイトの資料拡散を理由に、ニュースアグリゲーターへのアクセスを遮断することが可能になる。

・Google や Yandex のおすすり機能にも拡大される可能性あり。

(3/22 大統領府、Zerkalo)

【治安・軍事】

●ウクライナ避難民への対応

(1)ベラルーシ赤十字社と地方当局の動き

・ベラルーシ赤十字社は、遅くとも3月3日にはウクライナからの避難民の受け入れ準備を開始。南東部ゴメリ州当局や国家国境委員会とも打ち合わせを実施。

・赤十字は、ベラルーシ南東部ゴメリ州のウクライナとの国境地帯にテント村を設営し、食事・医療・通信等のサービスをその場で提供。また、同州の保養所を一時滞在施設として借り上げ。

(2)ウクライナからの避難者に対する査証免除

・3月23日、外務省は、無査証でのウクライナからベラルーシへの入国・滞在・出国を、4月15日まで(15日を含む)、軍事行動が行われている地域からの脱出を試みているウクライナ国民やその他の第三国民に許可することが決定された旨発表。

(3)ウクライナからベラルーシへの入国者の動向

・3月9日以降、有意に増加。22日から23日にかけて、ウクライナ人の入国者は631人にまで急増し、その後も増加中。

(3/6、22 国営ベルタ通信、3/23 外務省、2/24~3/25 国家国境委員会)

●ベラルーシから周辺国への不法移民

(1)一時収容施設の閉鎖

・3月22日、国家国境委員会は、ベラルーシ北西部グロドノ市郊外のベラルーシ・ポーランド国境の検問地点「ブルズギ」に所在するロジスティクスセンターにおける難民の一時収容活動の停止を発表。

・同センターに一時滞在していた外国人は全員退去。現在は本人らの要望を踏まえ、ホテルや保養所に分宿し、今後の退避便待ち。

(2)移民の母国への帰還

・3月22日未明、98人の難民が退避便にてエルビル（イラク）へ出発。

・母国への帰還は、国際移住機関(IOM)の支援プログラムを通じて実施中。

(3)ポーランドへの不法越境は継続

ポーランド国境警備隊の発表は要旨以下のとおり。

・3月21日、134件の不法越境の試みあり。2022年に入って最大規模。

・3月21日から27日にかけて、毎日数十件の不法越境の試みあり。

・3月26日、116件の不法越境の試みあり。そのうち40件はグロドノ郊外の国境検問地点「ブルズギ/クジニツァ」で確認。

(3/22、27 国家国境委員会、Zerkalo)

●ベラルーシ人義勇兵がウクライナ軍と合流

ウクライナでロシアと戦っているベラルーシ人義勇兵部隊であるカリノフスキー大隊は、意思の日である3月25日(1918年にベラルーシ人民共和国が独立を宣言した日)を期して、ウクライナ軍との合流を宣言。

(3/26 Zerkalo)

●ロシア軍によるベラルーシ領内への兵站基地設置

・ウクライナ軍参謀本部は、ゴメリ州ナロヴリヤ地区に、ロシア軍の補給拠点が設置されていると発表。

・同発表によれば、数十トンものロケット弾、砲弾、迫撃砲弾が同地区からウクライナ領に輸送されている。輸送回廊は、ウクライナのプリピャチ市を經由しており、チョルノービリ(露:チェルノブイリ)原発の隔離施設から数百メートルの地点を通っている。

・プリピャチに隣接するチョルノービリに、ロシア軍東部軍管区の部隊の臨時司令部、及び同第38独立自動車化狙撃旅団の司令部が設置されており、ベラルーシ領から運び込まれた弾薬が保管されている。

(3/27 Zerkalo)

【経済】

●ロシア・ルーブルの扱いに関するセルヴェルストフ財務大臣の発言

3月20日、セルヴェルストフ財務大臣は国営TV「ベラルーシ第1チャンネル」の番組で要旨以下を述べた。

・ベラルーシは自国通貨をロシア・ルーブルに移行したりしない。

・ベラルーシ・ロシア二国間貿易の決済はロシア・ルーブルで実施する予定。現在はドル決済だが、支払いに問題が生じてきているため。

(3/20、21 国営「ベラルーシ第1チャンネル」、BPN)

●露政府は、4月1日からベラルーシ・ロシア連合国家領内でのローミングでの着信料金の廃止を発表

(3/23 露タス通信、Zerkalo)

●仏製薬メーカーSanofi は、ベラルーシ・ロシア両国での広告と臨床試験の取り止めを発表

・同社は、ロシアによるウクライナ侵略への反対と、国際社会との連携を強調。

(3/23 Zerkalo)

●世界貿易機関(WTO)はベラルーシの加盟申請を差し止め

・ロシアによるウクライナ侵略に対するベラルーシの立場が、WTOのメンバーシップに相容れないため。

(3/24 プライムプレス、Zerkalo、BPN)

●ウクライナでの戦争に伴う、ベラルーシ製食料品の中国向け輸出への影響

ブリュク農業食料大臣は、国営TV「ベラルーシ第1チャンネル」の番組において、要旨以下を述べた。

・従来、肉製品や乳製品の主要な積み出し港であったウクライナのオデーサ港が、ウクライナでの戦争に

伴って利用できなくなった。

・中国側と、鉄道で露ウラジオストクまで輸送し、その先を海運で納入する方式等への切換に向け調整中。

・中国は、ロシア及びユーラシア経済同盟（EAEU）諸国に次ぐ大口輸出先。

（3/26 国営「ベラルーシ第1チャンネル」）

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表とラトウシコ元文化大臣によるポーランドの要人との会談（3/24）

（1）カミンスキ・ポーランド内務大臣との会談

・ベラルーシ人に対する査証の発給、ポーランドに移動してきたベラルーシ人に対する居住許可や社会福祉へのアクセス、労働許可等の課題を解決。

・ウクライナ人に対するプログラムや法をベラルーシ人にも拡大するよう申し入れ。

・また、ベラルーシ人に対する差別の防止を、ポーランド政府関係者及び外交官を通じて呼びかけることについても協議。

（2）ラウ・ポーランド外務大臣との会談

・ルカシェンコ体制による反ベラルーシ的な行動と反戦運動を開始したベラルーシ国民の要求との間には根本的な相違があることを強調。

・ベラルーシはロシア軍による一時的な占領下にあることから、ウクライナにおける戦争を終わらせるためには、ロシア軍をベラルーシ領からも撤退させる必要がある旨指摘。

（3/24 チハノフスカヤ氏公式ホームページ、BPN）

●バイデン米大統領との電話会談

・バイデン米大統領は、米国として、報道の自由を含む人権、及び自由で公正な選挙を擁護し促進するという点において、ベラルーシの人々に対する支援を継続する旨強調。

・チハノフスカヤ民主勢力代表は、ベラルーシの人々が自由のための戦いの、また自由と抑圧の間の戦いの最前線にいることを強調。

・チハノフスカヤ氏は、我々もまた、ウクライナの人々の側にしっかりと立っているとした上で、自由と人間性が勝ち残る旨確信していると強調。

（3/26 米ホワイトハウス、チハノフスカヤ氏公式Twitter）

【その他】

●2021年の米議会議事堂襲撃に参加した米国籍の男性がベラルーシで難民の地位を取得（3/22）

（3/22 Zerkalo、国営ベルタ通信、露 RBC 通信）

●欧州原子核研究機構（CERN）はベラルーシ・ロシア両国との協力停止を発表（3/25）

・CERN 理事会はロシアによるウクライナ侵攻を非難。（3/25 欧州原子核研究機構、BPN）

●IT関係者の国外移転に関するアンケート調査

・IT系ポータルサイト「dev.by」は、ベラルーシの3,000人以上のIT関係者に対し、国外移転の見込みに関するアンケートを実施。

（1）国外移転について

国外に移転予定	28.2%
国外に移転済み	26.8%
国外に移転しない	15.2%
未定	28.5%
その他	1.3%

（2）国外移転先

ポーランド	37.2%
ジョージア	25.5%
リトアニア	8.4%
ウズベキスタン	3.9%
トルコ	3.5%
キプロス	1.8%
ポルトガル	1.8%
ラトビア	1.3%
米国	1.1%
ドイツ	1.0%
エストニア	0.8%
その他	5.8%
未定	7.9%

（3/22 dev.by、Zerkalo）

●対ウクライナ戦争、ロシア軍の駐留等に対する
ベラルーシ人の見方:英チャタムハウスの世論調査

・2022年3月5日から14日にかけて、インターネットを利用したインタビュー形式にて調査を実施。

・対象者は、ベラルーシの都市部居住者の構造に応じて選別。性別、年齢、居住地の人口規模、教育水準等により補正。

・回答者数は896人、統計誤差は3.3%未満。

(1)ベラルーシへのロシア軍の駐留

・現在ベラルーシに、膨大な数のロシア軍が集結していることは好ましくない

そう思う	42%
どちらとも言えない	33%
そう思わない	25%

・ロシア軍がベラルーシに駐留している状況はベラルーシの中立にとっての脅威だ

そう思う	41%
どちらとも言えない	26%
そう思わない	33%

・ロシア軍はベラルーシ領からすぐに撤退しなければならない

そう思う	39%
どちらとも言えない	32%
そう思わない	29%

・ベラルーシへのロシア軍の集結は、ロシアとウクライナの間紛争がある程度解決する時まで維持されなければならない

そう思う	39%
どちらとも言えない	35%
そう思わない	26%

・現在ベラルーシにロシア軍が駐留していることはベラルーシにとって有益である

そう思う	30%
どちらとも言えない	32%
そう思わない	38%

・ほとんどの知人が、ベラルーシへのロシア軍の駐留を支持している

そう思う	25%
どちらとも言えない	44%
そう思わない	31%

・ベラルーシに常駐するロシア軍の兵員数を増やすべきである。

そう思う	9%
どちらとも言えない	39%
そう思わない	52%

(2)ベラルーシの軍事行動への負担

・自分の立場に一番近いものはどれか

ベラルーシはウクライナ側で参戦している	<1%
ベラルーシはこの紛争に参加していない	39%
ベラルーシはロシア側で参戦している	42%
わからない	19%

・ベラルーシは侵略国だという見方に賛成するか

そう思う	22%
わからない	25%
そう思わない	54%

・ロシア軍がベラルーシ領からウクライナを攻撃していることに反対する

そう思う	67%
どちらとも言えない	25%
そう思わない	8%

・ベラルーシはロシアに、ウクライナとの戦争を行うための前進基地として自国領を使わせてはならない

そう思う	52%
どちらとも言えない	32%
そう思わない	16%

(3)ベラルーシへのロシア軍基地の設置、核兵器の配備

・ベラルーシへのロシア軍基地設置をどう思うか

良くない	44%
良い	24%
関心がない	11%
わからない	21%

・ベラルーシにロシア軍の核兵器を配備することをどう思うか

良くない	45%
良い	35%
関心がない	12%
わからない	8%

(4) 軍事行動へのベラルーシの関与

・ロシアを支持するが 武力紛争には加わらない	28%
・完全な中立を宣言し あらゆる外国の軍を撤退させる	25%
・ロシアの行為を非難するが 武力紛争には加わらない	15%
・ウクライナの行為を支持するが 武力紛争には加わらない	4%
・ロシアの側に立って 軍事行動に参加	3%
・ウクライナの行為を非難するが 武力紛争には加わらない	2%
・ウクライナの側に立って 軍事行動に参加	1%
・わからない	21%

(5) ウクライナでの出来事について

主に何から情報を得ているか

ベラルーシの独立系メディア	43%
ベラルーシの国営メディア	39%
ロシアの独立系メディア	38%
ウクライナのメディア	37%
ロシアの国営メディア	36%
何も見ていない	18%

(3/24 Reform.by)

(了)